

立ち入りが難しい河岸に散乱するごみ 川の水を抜いて一掃作戦！ ～香川県知事、流域3自治体の首長らも参加～

日時：2023年6月4日（日）9:30～11:45 場所：香川県宇多津町

日本財団（東京都港区、会長 笹川陽平）は、海洋プラスチックごみ削減施策の一環として、この度、人の立ち入りが難しい河岸に散乱するごみの効率的な回収を目的とした実証事業を、香川県中部を流れる二級河川・大東川（だいそくがわ）にて実施します。

今回の実証事業では、せき止めた川の水を農業用水路を使って下流や海に直接流すことで、川の水を一時的に抜いて（※1）作業をします。水位を落とした川底に清掃ボランティアらが降り立ち、河岸の約2.0kmに渡って散乱するごみ（2トン程度の回収量を想定）を、梅雨でごみが海に流れ出す前に一掃します。

当日は香川県知事をはじめ、同河川が流れる3自治体（宇多津町、丸亀市、坂出市）の首長のほか、今回の取り組みで協力・連携している漁協・農業関係者や市民ら約200人が清掃ボランティアとして参加予定です。

※1：水を抜くのは一時的なもので、且つ完全に抜くわけではありません。

作業の間、川に棲息する生物は水溜まりやぬかるみに移動するため、死なせる・弱らせることは基本的にはありません



離島や半島の先端部、河口や河岸等、人の立ち入りが難しい場所に散乱するごみの効率的な回収・処理方法を実証する本事業は、瀬戸内4県（香川・岡山・広島・愛媛）と当財団が共同し、瀬戸内海へのごみの新規流入量を7割減・回収量1割以上増を目指している包括的的海洋ごみ対策プロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」の一環で実施しています。今回の実証事業は、岡山県（笹ヶ瀬川河口部：2022年3月）、愛媛県（宇和島市：2022年8月）、広島県（阿多田島：2022年11月）に次ぐ4事例目で、川の水を抜いての清掃は初めてとなります。

■取材申込：

ご取材いただける場合、URLまたは二次元バーコードから**6月2日（金）17時まで**にお申し込みください。<https://forms.gle/SfmpZgQRYkoZZDWV9>

※同様の内容が香川県等から送信される場合がございますが、どちらか一か所へお申し込みいただければ幸いです。



<リリースに関するお問い合わせ先> 日本財団 広報チーム 滝澤
〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 TEL: 03-6229-5131 E-mail: pr@ps.nippon-foundation.or.jp

<当日のお問い合わせ先> 日本財団 海洋事業部 塩入 070-7539-5507

■開催概要：(予定) ※雨天決行、荒天中止

1. 日時：2023年6月4日(日) 9:30~11:45(受付8:30~)
2. 場所：宇多津小学校校庭に集合、その後大東川へ移動
3. スケジュール：

【記者レク】9:00~ 宇多津小学校校庭(宇多津町長縄手815)

【出陣式】9:30~

挨拶：海野 光行(日本財団常務理事)、池田 豊人(香川県知事)、谷川 俊博(宇多津町長)

松永 恭二(丸亀市長)、有福 哲二(坂出市長)

参加：木下 一彦(宇多津漁業協同組合長)、西岡 健司(坂出綾歌淡水漁業協同組合長)

大坂 秀美(長縄手水利組合長)、柴村 賢三(聖通寺横井水利組合総代)

瓜生 正義(公益財団法人日本モーターボート選手会会長)

記念撮影・出陣の号令

---大東川まで移動(片道：徒歩数分)---

【一掃活動】10:15~11:00 大東川・河岸

【囲み取材】11:00~11:15 知事及び日本財団常務(海野)

※清掃活動は11:45まで実施

■取材・撮影に関して

- ・川底に降りて撮影する方には、胴長を準備しますが、数に限りがございます。
- ・当日は長ズボン着用、長靴持参を推奨します。(詳細は別途申し込みいただいた社に直接ご案内)

■今回の取り組み・背景

海洋ごみの約7~8割は、陸(街)で発生したものが河川や水路を伝って流れ出たもので、一度海に流れ出したごみの回収は困難となることから、ごみ拾いは海にごみをいかせない“最後の砦”といえます。高低差や柵があって立ち入りが難しい河岸には、草にひっかかるなどしたごみが放置されがちで、全国的な課題となっています。また、河川のごみを減らすためには流域一体となった取り組みが求められる一方で、多くの河川は自治区域をまたいで流れているため、ごみの管理や対策を行うべき範囲や責任も流域の複数自治体にまたがっています。さらに、上流と下流の生活者、河川を利用する漁業・農業関係者など、利害関係者も多いことから、多方面での調整が必要となります。

今回の実証事業は、係る手続きや調整事項に関する知見を蓄積するとともに、河岸に散乱するごみの効率的な回収方法を検証し、他エリアでも展開できるモデル事例を構築することを目的として実施します。大東川(香川県内2市2町を流れる、延長約17kmの二級河川)の中で集中的にごみが溜まっている、約2.0kmが主な活動範囲となります。

■瀬戸内オーシャンズX <https://setouchi-oceansx.jp/>

瀬戸内海に面する4県(岡山県、広島県、香川県、愛媛県)と日本財団が2020年12月に連携協定を締結し、共同で推進している包括的的海洋ごみ対策プロジェクト。外界からの海洋ごみ流入が少ない海域(閉鎖性海域)である瀬戸内海をフィールドに、①調査研究②企業・地域連携③啓発・教育・行動④政策形成の4つの柱で事業を実施。



日本財団・瀬戸内
オーシャンズX

■日本財団について <https://www.nippon-foundation.or.jp/>

痛みも、希望も、未来も、共に。

日本財団は1962年、日本最大規模の財団として創立以来、人種・国境を越えて、子ども・障害者・災害・海洋・人道支援など、幅広い分野の活動をボートレースの売上金からの交付金を財源として推進しています。

